

世の中には二つのルールがある。金持ちが使っているルールと、残りの九十五パーセントの人が使っているもう一つのルールだ。家庭や学校で教えられているのは、この九十五パーセントが使っているルールだ。いま、ただ単純に「しっかり勉強していい仕事につきたい」と子供に言い続けることが危険な理由はここにある。いまの子供たちにはもっと高度な教育が必要だ。それなのに現在のシステムでは必要なものが与えられていない。教室にいくつコンピュータが導入されようが、そのほかの設備にどんなにお金をかけようが、そんなことは関係ない。自分の知らないことはどうやって人には教えられないのだから。現在のシステムではいまの子供たちに必要なことは教えられない」

●学校はお金のために働く方法を学ぶところ

Poor Dad ; 高い教育を受けた父の方は、自分がやった通りのことを私にも勧めた。「息子よ、おまえには一生懸命勉強して、いい成績をとって、大会社で安定した仕事を見つけられるようにしてほしい。給料以外に福利厚生充実した会社を選ぶのも忘れないようにな」

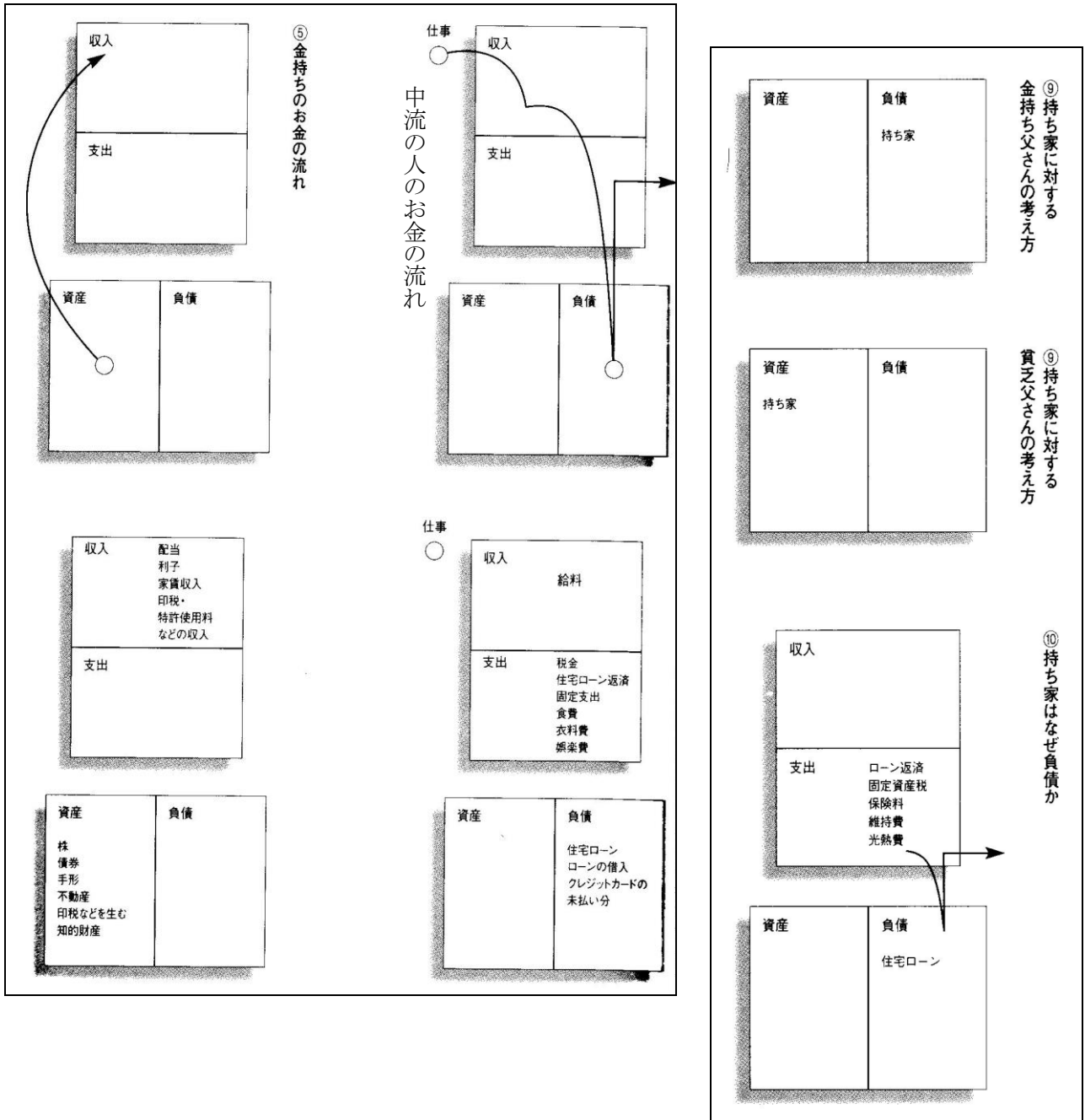
Rich Dad ; 一方、金持ち父さんは、お金がどのようにして働くかを学び、お金を自分のために働かせることができるようになったと言った。その後、私が大人になるまでに、金持ち父さんはそのための方法をいろいろ教えてくれたが、それはすべて教室の外で習ったものだ。

●お金がなくなったらどうしようという不安は、金持ちになっても問題は解決しない。

「解決しない。その理由を説明するには、人生のパターンを決めるもう一つの感情、欲望のことを説明しなくちゃならない。この感情を強欲と呼ぶ人もいるけれど、私はただ欲望と呼ぶ方がふさわしいと思っている。いま持っているものよりもいいものをほしいと思ったり、もっときれいなものを手に入れたい、もっと楽しいことやもっとおもしろいことをしたいと思うのはごく自然なことだ。人は欲望のためにも働く。つまり、お金で買えると思っている喜びを手に入れるために、お金をほしいと思うんだ。でも、お金がもたらしてくれる喜びはたいがいあまり長続きしたい。だから人はもっと楽しいことを、もっと快適な生活を、もっと安定した生活をしたいと思って、より多くのお金を必要とするようになる。だから働き続けるんだ。恐怖と欲望でゆがめられた魂がお金によって癒されると思ってね。でも、お金にはそんな効果はない」

「金持ちでもだめってことなの?」とマイクが聞いた。

「金持ちだって同じだ。金持ちがお金を持っているのは、欲望のためではなくて恐怖のためだ。金持ちはお金を持たないでいることの恐怖、貧乏になることの恐怖をお金が打ち消してくれるだろうと本気で信じている。だからたくさんお金を貯める。でも、その結果わかるのは恐怖がもっと強くなっていることだけだ。今度は貯めたお金を失う恐怖が襲ってくるんだ。私の友達の中にも、お金をたくさん持っているのになお働き続けている人は何人もいる。何百万ドルも持っているのに、それを持っていなかったときよりもっと大きな恐怖を抱えている人も知っている。そういう人はお金を失うのが怖いんだ。恐怖をなくそうとしてお金を貯めたというのに、その恐怖が前より大きくなっている。魂の弱い部分、何かをほしがってやまない部分が、前より大きな声で叫んでいる。お金によって手に入れた大きな家や自動車、いい暮らしなんかを失うのが怖いんだ。お金を失ったら友達が何と云うだろうかと心配なんだ。金持ちそうに見えて、実際お金をたくさん持っているのに、ひどく絶望していたりノイローゼ状態になっている人はたくさんいるよ」



家は負債

・「家は資産だ」「家は投資だ」という、よく耳にする考え方にはまったく別の見方もある。家計からお金を吸いとって行くからには、それは「負債」なのだ。

・家を持つことに関しては次のようなことを頭に入れておかなければならない。

- 1.ほとんどの人は完全には自分のものにならない家のために一生お金を払い続ける。つまり、ほとんどの人は何年かおきに新しい家買い換えるが、そのたびに前の家の支払いはすませても、たいていは前より大きな家を買うために新たな三十年ローンを組むことになる。
- 2.たとえ住宅ローンの返済の利子分を所得税の対象の所得から控除することができたとしても、そのほかの経費は税金を取られたあとの収入から払わなければならない。たとえローンを払い終わったところで、その経費は変わらない。
- 3.固定資産税もばかにならない。私の妻の両親は自分たちの家にかかる固定資産税が月額にして千ドルを越えたとき、その額にびっくりした。引退前だったので、この負担増は二人の引退後の生活設計に大きな影響を与えた。結局二人はやむなく家を手放した。
- 4.家の価値はつねに上がるとはかぎらない。1997年現在、私の友人の中には百万ドルで購入したがいまは七十万ドルでしか売れないという家を持っている人が何人もいる。
- 5.持ち家を所有することにとまなう「損失」の中で最大のものは、それによって大切なチャンスが失われることだ。家にすべてのお金をつぎこんでしまったら、あとは前にもまして一生懸命に働くしかない。とい

うのも、家にかかるお金が支出としてどんどん出て行く一方で、資産の欄には何も貯まらないからだ。これが中流家庭の典型的なお金の流れのパターンだ。もし、結婚したばかりの若いカップルが早い時期に資産の欄にお金を注ぎ込むようにすれば、あとあとになって楽な生活が送れる。とくに、子供を大学に送る準備ができるので楽だ。その頃には資産が充分大きくなっていて、支出をカバーするだけの収入を生んでくれるようになっていだろう。家を所有することは多くの場合、増え続ける支出のために、家屋を抵当としたローンを背負い込む原因になる。

この五番目の「損失」についてももう少し説明しよう。有価証券への投資など、資産を増やす努力を早い時期に始める代わりに、借金をしなければ買えないような家を買った場合、最終的にそれは少なくとも次のような三つの損失をその人に与える。

- 1.時間を失う。ほかの「本当の資産」に投資していれば、ローンをせっせと返しているあいだにその価値が上がったかもしれない。
- 2.投資にまわせるはずの資本が減る。家を買ったことによって、それからずっと払い続けなければならない高い維持費は、本当ならほかの投資に回すことができたはずのお金だ。
- 3.教育を受ける機会を失う。ふつう人は持ち家や貯金、年金などを資産として考え、それをあてにする。そして、投資に回すお金はないからと言って、投資には手を出そうとしない。このことは投資の経験をのがしていることになる。このようにしてたいいていのは、「目の肥えた投資家」になるチャンスを失う。一番割のいい投資というのはこういった「目の肥えた投資家」にまず最初に売られ、次にこの投資家が一般の「安全なものだけを買う投資家」に売りさばいて利益をものにする。

《不動産投資？》

たいいていのは小さな会社の株を買うのを怖がり、危険が多すぎると言う。実際たしかに危険は多いが、投資が大好きで、それを理解するために勉強し、ゲームのやり方を心得ていればその危険は回避できる。小さな会社の株に私が投資する際のコツは一年以内に売却することだ。

不動産投資の方のコツはこれと異なり、まず小さい物件を購入し、それをどんどん大きな物件に買い替えるやり方だ。こうすれば売買によって得た利益に対する税金の支払を遅らせることができ、結果としてその物件の価値を何倍にも増やすことができる。私が一つの不動産を所有し続ける期間は長くて七年だ。

《役人はいずこも同じだ》

「きみのお父さんと私は正反対だと言っていい。きみのお父さんは政府のために働く官僚で、私は資本家だ。二人とも給料をもらっているが、実績の評価のもととなる行為はまったく反対だ。きみのお父さんはお金を使い、人を雇うという仕事に対して給料をもらっている。たくさんお金を使って、たくさんの人を雇えば雇うほどお父さんの勤めている組織は大きくなる。政府の中では組織が大きくなればなるほど、そのために貢献した人が高い評価を受けるんだ。反対に、私が所属する組織では、できるだけ雇う人を減らし、使うお金を減らすと、投資家からの評価が高くなる。私が政府の役人というのをあまり好きじゃないのは、こういう違いがあるからだ。政府の人間はビジネス界の人間とは違う目的を持っている。政府が大きくなれば、それを維持するためにより多くの税金が必要になる」

「政府で働いている人たちは怠け者の泥棒だ」

⇒「金持ちは欲の皮のつっぱった詐欺師だ。もっと税金を払わせるべきだ」

課税の対象が広げられたときも金持ちの財産は守られた。このときも前の時代と同様会社が隠れみのとなった。おかげで会社を利用する方法がさらに普及した。というのも所得税法が成立し、その蓋を開けてみると、**会社の所得税率が個人の所得税率より低かった**のだ。

「ファイナンシャル・イソテリジェンス」を形作る四つの主な専門知識をあげておく。

- 1.会計力…ファイナンシャル・リテラシー(お金に関する読み書き能力)。数字を読む力。
- 2.投資力…投資(お金がお金を作り出す科学)を理解し、戦略を立てる力。
- 3.市場の理解力…需要と供給の関係を理解し、チャンスをつかむ力。アレクサンダー・グラハム・ベルは市場がほしがっていたものを市場に与えた。ビル・ゲイツもそうだった。二万ドルで買った七万五千ドル相当の家を六万ドルで売るというのも、市場によって作られたチャンスをつかんだ結果だ。買う人がいて売っている人がいる。これ

が市場の基本原理だ。

4.法律力…会計や会社に関する法律、国や自治体の法律に精通していること。合法的にゲームをするのが一番だ。その対象が小さな家であれ、大きなアパートであれ、また株であれ、債券、投資信託、貴金属であれ、はたまたベースボールカードであれ、物を売って富を築こうとするときに必要なのは、いまあげた四つの技術を組み合わせた「基本的な土台」だ。

「従業員は首にならない程度に一生懸命働き、経営者は従業員が辞めない程度に給料を与える。」

私は、元教員でいまは一年に何十万ドルも稼いでいるという人に出会うことがある。そういう人たちは教育の分野だけでなく、そのほかの技術も持ち合わせているからこんなに稼げるのだ。彼らは教えることもできるが、セールスとマーケティングの能力も持っている。私はセールスとマーケティングの能力ほど重要な技術はないと思う。たいていの人にはセールスとマーケティングの能力を習得するのはむずかしいと思っている。その大きな理由は、拒否されることに対する恐怖だ。

敗北によってやる気を奮立たせる者が勝者となり、敗北によって打ち負かされてしまう者が敗者となる。

心では「本来はこうあるべきなのに」とわかっているのに、それを避けている自分に気づいたときにはいつも、「それをしたらどんなプラスがあるだろう?」と自問しよう。そして少し欲張りになることだ。それこそが怠け心につける最良の薬なのだから。

「自分の心に聞いて『正しい』と思うことをやることだ。なぜなら、いずれにせよ批難を受けることになるのだから。たとえ何をしようと、また何もしなくても、文句を言われる」というものだ。

近所の人が十万ドルでマンションを買った。私はその部屋の隣で、ほとんど同じ間取りのマンションを五万ドルで買った。値段が上がるのを待っていると言うこの隣人に、私は「利益は買ったときに生まれるのであって、売ったときに生まれるのではない」と話して聞かせた。

安全に運用するのではなく、賢く運用する。
一生懸命働くのではなく、頭を使って金持ちになろう。